高退協ニュース

高知高退協
事務局
2009.3.5
No.157

〒780-0850 高知市丸ノ内2丁目1-10
高知県高等学校退職教職員協議会
教育会館内高教組気付
TEL 088-822-6822
郵便振替口座 01650-2-11893

反貧困、生活危機突破県民集会開かれる
～二・一三昼休み集会～

年金天引きから六回目の介護保険料が天引きされる去る二月一三日、「後期高齢者医療制度廃止・療養病床削減反対昼休み集会」が、高知市市役所前にて開かれ、百十人が参加しました。参加者は市内を行進して後期高齢者医療制度廃止を訴えました。

高知市老人クラブ連合会の川村信夫会長が「年寄りを大事にしない国は滅びる。今、消費税増税が論議されているが、年寄りの支出の大部分は食費になっており、消費税増税は年寄り世帯を直撃する。年寄りや弱い立場の人を大事にする新しい社会につくり変えるためにみんなが力を合わせて悪い政治を正していきましょう」と挨拶しました。炭鉱節の替え歌で「後期高齢者医療制度を怒るうた」が披露され、全員で合唱しました。

同日夕、「反貧困・生活危機突破県民集会」が開かれ、参加した百人余の人たちは、「労働者・国民を苦しめる大企業とアメリカいいなりの政治から人間を大事にする政治への転換を目指そう」との集会宣言を確認しました。

新年初歩き
今年は～日高村ドウダンツツジ公園～

恒例の高退協と山の会共催の二〇〇九年初歩きが、一月六日に日高村ドウダンツツジ公園にて行われ三〇名が参加しました。

今年も、天気は快晴で穏やか。午前十時過ぎ、汽車やバスで日高村小村神社前に集合し、山の会の上岡会長の説明を受けた後、十一時前に出発する。錦山ゴルフ場手前の高台にて昼食を摂る。昼食後出発してほどなく、広大な霧山茶園が広がる。日高村にこんな広大な茶園があったのかと驚く。後日聞くところによると、この茶園は個人経営によるものだそうで、個人でこれほどの広大な茶園は県下ではここだけではないか、とのことであった。茶園向かいのゴルフセンターで小休止した後、日高村を見下ろす妹背峠には午後二時過ぎ到着。小休止の後、目的地のドウダンツツジ公園に下りて行く。道は良く整備され、花期の頃にはさまざまなツツジやトサミズキが咲き乱れていることを想像させるが、残念ながら、その時期ではなかった。ツツジの頃にまた来たい、と思いながら、公園で迎えのバスを待った。歩くには程よいハイキングコースであった。早めに新年会会場である今話題の「かんぽの宿いの」に到着し、ゆっくり温泉に入る。

新年会は五時開始。更に二名が加わり、三二名となる。三谷高退協会長の挨拶の後、浜田昌俊高退協元顧問の音頭で乾杯し、約二時間お互いの今年の健勝を願って歓談する。歌や踊りも出て大いに盛り上がりました。

草声老語

ダンプや大型のトラックが猛烈な勢いで横を走り抜ける。走り去った後の空間に流れ込む風に巻き込まれる倒れそうになる。

オートバイが接触せんばかりに追い越してゆく。一瞬ヒヤリとする。

交通事故で大怪我をした後、通勤・通学の移動手段を自転車にした。法規に則り、車道の左端を走行しているが、このような危険な状態。それならと歩道を走る。

段差や放置自転車等で走りづらいことこの上ない。

横の路地から子どもや自転車が突然走り出してくる。母娘三人乗りの自転車にぶつけられたことがある。右足に怪我をしたが幸運にも軽傷で済んだが、歩道も安全ではない。老人・子どもに追突すれば加害者になる。

ヨーロッパなどではライドアンドパークという考え方に基づく街づくりがおこなわれている。周辺部の駐車場に車を止め、市内は公共交通機関や自転車で移動する。ユニバーサルデザインのバスや電車を導入し、自転車道や、歩道を整備する。車優先でなく、人や自然を大切にする町づくりである。

近年、日本でも取り入れられるようになったが、まだまだ思想の段階。実際はあまり進んでいない。安全でゆっくりと、誰でもが散歩やショッピングを楽しめる町づくりを思い切ってやってほしいものである。

ともあれ、自転車には楽しみが多い。かなり遠出が出来る。車の入らない細い裏地にも自由に出入りできる。そして、珍しい、楽しい光景に度々出会う。

国分川の堤防沿い。鴨が横一列に並び、太陽に向かって羽を広げ、”むし干し”をしている。鴨の一日干しをつくっているようでなんともユーモラス。

ユーモラスついでにもう一つ。亀が三匹重なって甲羅干しをしていた。昔「親亀の背中に子亀を乗せて、子亀の背中に孫亀乗せて、親亀こけたらみなこけた」というギャグが流行った。単なるギャグでなく”事実”に基づいたものなのだったのかと妙に感心した。

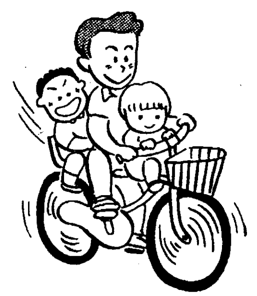
こんな楽しみもある。夕闇迫る薄暮の”ネオン川”に身を任せ漂う、ふと気になる居酒屋にフラ〟と入ってみる。店内のインテリアなどを見回したり、隣の客のほろ酔い話に耳を傾けながら、刺身に奴っ子、一本のビールに湯割り。つつましい？ものであるが結構乙な気分になり、ストレス解消にもなる。

「わかってます」自転車でも飲酒運転になることは。

ホロ酔いのホホに夜露を受けながら自転車を押して帰るのです。安全と健康のために・・・・・

ことほどさように自転車を楽しんでいるのです。

（井垣政利）



事実に向き合う歴史認識を
～田所金久氏が講演～

「「2・11建国記念の日に」反対するつどい」が11日、県立人権啓発センターで開かれ、160人が参加した（同実行委員会主催）田所氏は、講演の中で田母神俊雄前航空幕僚長の論文に見られるように、歴史を逆戻りさせる動きが絶えずあり、その根底に、教育では愛国心の強調や皇国史観の押し付け、社会的には紀元節の意義づけや「日の丸」「君が代」の強制などがある」と指摘され、「私たちが歴史の中で学ぶべきものは、平和と民主主義を進める観点で歴史をとらえること、憲法を守り生かす運動をひろげよう」と訴えられたました。

集会では、徳弘嘉孝・県平和委員会理事長が高知県内の軍事化、西山潤県教組書記長が新学習指導要領と「愛国心教育」について報告しました。（幸泉）

今、高教組は

倉橋楠雄

二月十三日、県教委は、二一年度教員採用名簿登載の二次発表をしました。この結果、第一回の発表と併せて県立では高校二十二人、特別支援校七人の登載となりました。

今、全国では二十万人を超える臨時教員が配置されていると想定されています。高知県立校でみてみると、四〇〇人を超す臨時教員が配置されています。このうち一四七人は定数内臨時教員です。

こうした状況を打破するためには、どうしても正規教職員の増員が必要です。教育活動充実のために、国の責任による教職員の長時間過密勤務解消のために、教職員の増員は避けて通れない課題となっています。

しかし、わが国の教育予算は減らされ続け、OECD諸国の中で最貧国となっています。大学卒業までの家計に及ぼす教育費の割合は耐え難いほどになっており、教育費の拡充は国民的な声になっています。教育の充実のためにも教育予算の拡充と教育条件の改善、教職員の増員がどうしても必要であり、OECD諸国なみの教育予算を確保すれば定数内の臨時教員を採用にし、さらに、三〇人学級の実施のための教職員の増員は十分に実現可能な施策です。このことを私たちは強く求めていきたいと考えています。

今年度、青年部が「教員採用審査・臨時教員制度に関するアンケート」に取り組み集約しました。年末にかけて実施し県立から一三六名の回答を得ることができました。「採用・着任・生活・教育実践」等について切実な声が寄せられています。（詳しくは、ブログ『高教組日誌』をご覧ください）

高教組はこの声に応え、「要求書」を作成し、県教委との交渉を要求しています。「高知県で先生になりたい」という夢を持った臨時教員の願いを実現するため奮闘します。

また、私たちは憲法改悪阻止のため全教が提唱している「三億円基金」にとりくみ、一二〇万円を目標はカンパ活動を行っています。書記局で受付を行っており、高退教の皆さんにもご協力をお願いします。よろしくお願いします。

訃報

門脇若夫さん

二月十九日逝去

慎んでご冥福をお祈りします

老眼鏡

『日本はなぜ旅客機をつくれないのか』

前間孝則　草思社

中村　正博

二年前、高知空港でのカナダ製ボンバル機の胴体着陸のリアルな映像が、テレビで何度か流された。その前からボンバル機のトラブルは各地で頻繁に発生していた。その時、世界第二の経済大国、技術大国を誇る日本がなぜ自前の旅客機をつくることができないのか、素朴な疑問を持った。その疑問に応えてくれたのが、表題もピッタリの本書であった。すっかり忘れかけていたところを、最近、高新の連載記事「空の隙間」を読んで思い出し、再度読み返してみた。

戦時中「零戦」などの名機をつくりあげ連合国を脅かし、戦後も優れた旅客機YS11を作ったにもかかわらず、その後、国産旅客機を作ることが出来ない日本の状況を解明している。

YS11の初飛行は昭和三七年。以後一八二機を生産したが、まったく実績のない日本が作った旅客機は、売れば売るほど赤字が増えていく高コスト体質で、ついに昭和四六年に量産を中止した。九年間の累積赤字は三六〇億円にのぼり、その負担をめぐって、通産省とメーカーが責任のなすりあいをしてごたごたした。

その結果、当面の赤字処理だけが問題となり、欧米先進諸国のように、長期的に自国の航空機産業をどう育成していくか、人材育成やYS11で培った技術やノウハウを今後どう生かしていくべきか、といった最も大事な観点が欠落してしまった。

さらに、日本の航空機産業の特異性は、軍事面での歪んだ日米関係にある。常にアメリカのコントロールの下に置かれ、防衛省や航空会社が新機種を導入するたびに、利権の獲得合戦に発展し、日米の政治家、商社による疑獄事件がたびたび発生した。こうした航空機産業を食い物にした事件の繰り返しが、日本の悲願である民間航空機の自主開発を阻害してきている。

このことは、航空機産業に限らず、省庁の縄張り争い、情熱を持つ政治家や官僚の不在、メーカーの親方日の丸体質など、日本がかかえる大きな問題点だと思う。

私の健康法

私が今使っている自転車は、ドロップハンドルの自転車です。20代後半からずうっとドロップハンドルです。なぜかというと、長距離をいく場合に、ドロップハンドルだと、ハンドルを持つ位置を変えることができるので、体の負担を少なくすることができるからです。おかげでずいぶんあちこちに自転車で行きました。松山、北川村、室戸、宇佐の横浪3里や工石山、豊永、本山などです。一時期は、伊野の保養センターの温泉に入りによく行ったこともあります。サイクリングの楽しみは、走りながら風に吹かれて自然の風景を見ながらいくことだろうと思います。汗が出ても風で吹き飛ばして自然に乾かすことができますし、コースを選んで運動強度の調整ができます。でも90年代後半、マウスを使うパソコン作業で、頚腕を痛めたのか自転車に乗ると首から肩にかけて痛みを感じるようになり、五十肩も加わってサイクリングからは遠のいていました。できるだけマウスを使わず、キーボードで作業をするようになってから痛みがなくなり、再びサイクリングができるようになりました。

けれども退職したこの一年は、数学でやり残してきた課題やロシアの数学教育雑誌の翻訳、家事などの時間配分・確保に苦労するなかで、遠距離サイクリングはできていません。

今のところ、かろうじて月に一度五台山の牧野植物園までペダルを踏んで行くのが精一杯です。牧野植物園は、年間入場料2000円を払えば一年間何度でも入場できますので、四季折々の花を見に行くには好都合です。この頃は温室の模様替えやイベントなども時々あり、今はお酒の試飲もあるなど楽しみがあります（もっとも自転車なのでまだ試飲はしていませんが）。手軽さで気に入っているのが、美術館から一宮中学校、一ツ橋小学校にかけての川沿いのコースです。風景もよく、私の東石立町の自宅からは一時間もかかりませんので、気分転換にはいいコースです。

運動を主にするときは、円行寺から北山の尾根道を経由して正蓮寺に降りるか、少し時間的に余裕があれば鏡、土佐山、正蓮寺間のコースが比較的手頃です。多少きつめのコースですが、時々体力チェックもかねて行こうと思っています。

土居　康男

川柳（十句）

小澤　幸泉

雑草の抄　四

見つめ合う愛深まりてグラス置く

血で染めた聖書が神の愛を説く

動くたび心がまるくなっていく

たずね来て砂の器にある嘆き

憎しみと悲しみを消す砂あらし

トップにもヒラにもなれず日が暮れる

気がつけば仲間外れの輪に入り

安全という幻想の傘に入り

傘を描く夢二が話しかけてくる

毒まんじゅう君も食べたか旨かろう

宅急便母の願いが詰め切れず

壁紙をはがすと親父の泣いた顔

財テクが老眼鏡に納まらず

お母さん時どき耳が遠くなり

長生きをしすぎてどうもすいません

顔色をうかがいながら注ぐお酒

道運れと曲がりくねって六十路過ぎ

吊し柿亡母のことなど話そうよ

低位置にふとんを敷いて妻を待つ